

2024



TOKOHA
UNIV.

常葉大学 地域貢献センター 活動報告



目 次

巻頭言	2
地域貢献センターのご案内	3
地域活性化の人材育成事業	
ところは未来塾 ― TU can Project ―	5
ところは人材育成プロジェクト	7
地域・社会貢献活動事例	8
地(知)の拠点事業	
地域交流・連携推進事業	20
公開講座	21
自治体・企業等との共催・連携事業	23
産官学連携事業	
産官学連携研究	28
外部助成事業	30
学生団体紹介	
学生団体紹介 ― 静岡キャンパス ―	33
学生団体紹介 ― 浜松キャンパス ―	34

常葉大学・常葉大学短期大学部

学長 江藤 秀一



(静岡水落キャンパスにて)

本学は静岡県内に4つのキャンパスを持ち、学生数およそ8,000人の県内最大規模の私立総合大学です。在学生の9割強が県内出身者であり、地域貢献は地域に根差した大学としての使命であると認識しています。その使命を着実に果たすために、平成30年4月に静岡草薙キャンパスに地域貢献センターを開設し、浜松キャンパス地域貢献センターと一体となって、公開講座をはじめ、地方自治体等との連携事業や学生のボランティア活動等を実施しています。

本年度も教職員が地域住民や関係機関等と連携を図って実施する「地域交流・連携推進事業」や学生の自主的・自発的な取り組みを支援する「とこは未来塾－TU can Project－」をはじめ、学部・学科及び短大各科の特色を生かした地域貢献活動や学生の諸団体によるボランティア活動等を活発に行いました。また、「常葉大学フードドライブ」や「常葉グリーン・プロジェクト」といった食品ロスの削減や環境問題に取り組むSDGsに関わる活動も行いました。

今後も地域の皆様に貢献できますよう、産官学連携をなお一層強化し、皆様方と手を取り合って地域貢献活動を推進してまいります。どうぞ引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

常葉大学 地域貢献センター

センター長 小野田 貴夫



令和6年能登半島地震、その後の大雨災害、東北地方をはじめ各地の山火事により、多くの方々が困難に直面しています。一日も早い復旧・復興を願い、心よりお見舞い申し上げます。

本学では、「とこは未来プラン」を掲げ、そのなかでは、学生や教職員の知識・技術、さらには現場での実践力を地域社会とつなげ、社会的な必要性に応じた貢献を実現することが求められています。むしろ、大学がその知的・技術的資源を地域社会に還元し、人々と共に未来を創り出していくことこそ、本来の大学の在り方であり、本学の地域貢献活動は、まさにその理念を具現化するものです。その成果を本活動報告書の随所でご確認いただけることと思います。

しかしながら、大学の資源のすべてが、直接地域の方たちに活かせるわけではありません。それらを適切に調整し、社会の必要性に沿った形へと適応させることで、地域と大学が繋がる機会を提供することも、本学地域貢献センターの重要な使命です。今後、その重要性はますます高まっていくことでしょう。

これからも、本学の地域貢献活動をさらに活性化させ、地域との連携を深めてまいります。引き続き、本学の地域貢献活動へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

地域貢献センターのご案内

◆地域貢献センター開設の目的

常葉大学は平成30年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。地域社会における大学の役割は、「地（知）の拠点」として地域の方々の生涯学習の場を提供することや、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値を作り出すための積極的な活動が求められます。

地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネート、地域の諸活動に係る情報収集・分析・調査、公開講座の運営等、様々な取組を通じて、地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成していきます。また、地域と大学、地域と学生を結ぶ地域連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。



◆取組・業務内容

センター機能



地域活性化の人材育成事業

- ◆地域貢献プロジェクトへの支援（とこは未来塾－TU can Project－）
- ◆ボランティア活動を通じた地域リーダーの養成（とこは人材育成プロジェクト）
- ◆学生ボランティアの要請に対する活動支援
- ◆地方自治体はじめ諸団体との連携活動支援
- ◆学生独自の地域貢献活動への支援

地(知)の拠点事業

- ◆地域交流・連携推進事業
- ◆公開講座の実施
- ◆自治体・企業等との共催・連携事業

産官学連携事業

- ◆企業・行政等との共同研究の推進、マッチング
- ◆産官学および地域連携を推進する事業の企画・実施
- ◆大学間連携の推進
- ◆自治体等との包括的連携の推進
- ◆自治体等における学識者としての派遣

◆包括連携協定先一覧

地域の特性およびニーズに応じた地域連携・交流事業を展開するため、地方自治体、各種団体等との連携・交流協定の締結をしています。双方の持つ経営資源を活用し、地域課題の解決に貢献しています。

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	平成 27 年 10 月 13 日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	平成 27 年 11 月 13 日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	平成 28 年 3 月 24 日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	平成 28 年 6 月 14 日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	平成 29 年 3 月 27 日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川市スポーツ協会	平成 29 年 9 月 15 日
7	常葉大学と I Love しずおか協議会との連携・協力に関する協定書	I Love しずおか協議会	平成 29 年 10 月 26 日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る協定書	静岡市内の 複数高等教育機関等	平成 29 年 10 月 26 日
9	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との連携に関する協定書	公益財団法人 浜松市スポーツ協会	平成 30 年 7 月 27 日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する協定書	株式会社 静岡銀行	平成 30 年 8 月 28 日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する協定書	静岡県警察	平成 30 年 11 月 1 日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人 日本財団ボランティアセンター	令和 元年 12 月 16 日
13	常葉大学と静岡県教育委員会との探究的な学習に関する連携協定書	静岡県教育委員会	令和 6 年 3 月 12 日
14	常葉大学と静岡県教育委員会の包括連携の協定書	静岡県教育委員会	令和 7 年 3 月 24 日

◆地域貢献活動実施件数報告

令和 6 年度の地域貢献活動実施件数は以下のとおりです。

令和 6 年度〈年間集計〉	大学主催		学生企画		外部依頼			合計	
区分	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数	募集件数	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数
子育て・教育	25	964	37	432	88	77	363	139	1,759
障がい・健康福祉	0	0	0	0	46	19	56	19	56
一般スポーツ	6	94	10	109	29	22	137	38	340
防災・防犯	2	22	1	9	17	49	112	52	143
地域活動	26	303	11	140	170	137	682	174	1,125
合計	59	1,383	59	690	350	304	1,350	422	3,423

とこは未来塾 — TU can Project —

本事業は、学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助等の支援を行っています。事業規模によりベーシックプランとライトプランがあり、開かれた大学づくりプロジェクト(A)、地域貢献・活性化プロジェクト(B)、現代的課題解決プロジェクト(C)の3つの分野(タイプ)で募集しています。この事業に取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力を地域の活性化に結び付け、社会対応力の醸成に繋がることを期待しています。

◆令和6年度採択事業一覧

ベーシックプラン：本事業目的に即し、具体的かつ発展性のあるプロジェクトに対応するプラン

No.	タイプ	テーマ	グループ名	代表学生所属
1	B	にしなサマーキッズカレッジ 2024	リンク西奈	教育学部 学校教育課程
2	B	より良い地産地消を目指して	三井・池田ゼミ	社会環境学部 社会環境学科
3	B	常葉大学×カレッジまどか 共同プロジェクト ～あなたの夢をかなえます！「福祉型大学編」～	赤塚ゼミ 3年	保育学部 保育学科
4	B	岡部町の魅力を体験するための散策マップ作り	岡部町散策マップチーム おかべえさん	造形学部 造形学科
5	C	すごろくによる食品ロス意識の向上	丸岡ゼミ	法学部 法律学科
6	C	Let's インクルーシブスポーツ	ぶれぐろラボ	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科
7	C	災害対策推進プロジェクト ～安心安全な地域の未来のために～	ThunderBirds	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科

ライトプラン：本事業に挑戦しやすく、事業負担の少ないスタートアッププラン

No.	タイプ	テーマ	グループ名	代表学生所属
1	B	地域高齢者における予防プロジェクト	プリラボ	健康科学部 静岡理学療法学科
2	B	「SNS」を活用した若者の野菜摂取量アップと 浜松市民の食への関心を高める試み	トコハ Health Nutrition グループ	健康プロデュース学部 健康栄養学科
3	B	こどもと自然 ～自然の中で子どもとかわる～	Sun & Leaf	健康プロデュース学部 こども健康学科
4	B	体育支援ボランティア	友サポーターズ	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科

10・11月には各キャンパスの大学祭にあわせてベーシックプランの中間発表(ポスター展示)を行いました。また、3月には事業報告会を開催し、全11団体が1年間の活動成果を報告しました。報告会の第3部では「活動する仲間を増やすために」をテーマに学生交流を実施し、「SNSを活用し、楽しさを伝える」「興味がある活動に参加する時、友人を誘う」等、自らの経験を発信することが必要ではないかと語り合いました。



◆取組事例(一部抜粋)

より良い地産地消を目指して／三井・池田ゼミ

社会環境学科の学生有志は、より良い地産地消をテーマに耕作放棄地について広く知ってもらうため、耕作放棄地での収穫物（大豆）を活用した商品開発や、小学校での出前授業の実施、地域主催イベントへの出展を行いました。商品開発では、イベントでの出展時に試作品の試食を交えて実施した調査結果から、豆乳パウンドケーキを新商品とすることに決めました。小学校での出前授業では、耕作放棄地やSDGsについて子どもたちに楽しく学んでもらえるよう、味噌作り等で実物に触れる工夫をしたことで、活動に興味を持ってもらうことができました。

*ベーシックプラン



災害対策推進プロジェクト～安心安全な地域の未来のために～／ThunderBirds

ボランティアサークル ThunderBirds は、能登半島地震で災害関連死が増えていることに着目し、事前の対策により防止できるのではないかと考え、防災、減災意識を高める啓発活動(まなぼうさい)や能登半島地震の被災地の視察や支援活動、また、授業中に災害が起こった時を想定し危険箇所の調査を行いました。この事業を通じて、災害関連死を防ぐためには、人との「つながり」と備蓄の必要性を再認識しました。また、防災活動はまず「災害を自分事にすること」が必要と伝え、災害関連死を少しでも減らすためにも一人一人の防災意識を高めることが大切だとまとめました。

*ベーシックプラン



地域高齢者における予防プロジェクト／プリラボ

静岡理学療法学科の学生有志は、軽度認知障害（MCI）の予防を目的として静岡市が地域サロンで行っている運動指導について、施設利用者が正しく運動を継続できているかの確認と運動支援を行いました。施設では、認知症・MCIについての説明を行い、静岡市の認証予防プログラムの動画に基づき運動指導を行いました。また、脳トレやレクリエーションも実施することで、認知症・MCI リスクの軽減に繋げるよう工夫しました。適切な運動習慣を身につけることで予防効果が期待できるため、今後も活動を続けていきたいと思っています。

*ライトプラン



体育支援ボランティア／友サポーターズ

心身マネジメント学科の学生有志は、子どもたちが安全に楽しく体を動かせる環境をつくることを目指して、こども園で運動遊びの企画・実施や小中学校の授業サポートを行いました。活動前には、体育科教育について安全管理や指導方法に関する知識を深め、マット運動やバレーボール、水泳の授業支援を行いました。実際の教育現場での活動を通じて、身体的・心理的特性を考慮した支援の仕方を身につけることができました。また、幼児から中学生の関わりを通じて年代に応じた指導を経験し、教職への意識を高めることができました。

*ライトプラン



とこは人材育成プロジェクト

本事業は、静岡県教育委員会が主催する「静岡県青少年指導者級別認定事業」の一環であり、本学学生をはじめとする参加者の日頃の地域貢献活動やボランティア活動を評価する事業です。本学の建学の精神「より高きを目指して～ Learning for Life ～」及び教育理念に基づき、将来につながる資質や専門的な能力を高め、地域の活性化に貢献する存在、地域のボランティアリーダーとして活躍できる人材の育成を目的として、令和5年度より全キャンパスで実施しています。

参加者はボランティア活動を実施後、地域貢献センターに活動報告書を提出し、活動の評価・認定を受けます。これを繰り返し行い、期間内に累計活動時間数が一定の基準を満たすと、静岡県教育委員会から「静岡県青少年指導者（初級・中級）」の認定を受けることができます。

今年度は青少年指導者の初級資格認定を27名が受け、中級の基準を7名が修了しました。

◆活動事例

静岡県青少年指導者級別認定事業
初級認定者

造形学部 造形学科
1年 土屋 萌々香さん



元々地域貢献に関心があり、地域貢献センターの学生スタッフLinkに参加し、そこで本プロジェクトを知りました。ボランティアを通じて初級認定を目指すため、駿府城夏祭りのボランティアに参加したり、Linkの活動として、大学祭で「お祭り展覧会」という展示企画を実施したりしました。これらの活動を通して、活動の内容や、初対面の人とのコミュニケーション、スタッフとしての接し方を学びました。今後は中級の指導者認定を目指すとともに、自分の活動に対してサポートをしてくれた方々への恩返しとして、他の人をサポートできるような活動をしていきたいと考えています。

静岡県青少年指導者級別認定事業
中級認定者

健康プロデュース学部 心身マネジメント学科
3年 穂山 拓海さん



将来、教員を目指しており、指導者として活躍できる知識や技能を身につけたいと考え、「静岡県教育委員会」が主催するこの事業に参加しました。浜松市内の小学校で体育の授業支援を行ったり、袋井市立袋井南中学校の陸上競技部員に対して練習メニューの作成や技術指導を行ったりしました。陸上部活動支援では、より選手の記録が伸びるよう専門的かつ選手自らが考えて行う練習内容を一から考え実践しました。その結果、大会では過去の成績を上回る結果を残すことができました。

活動を通して、指導方法や生徒との関わり方を実践的に学ぶことができました。今後も陸上を通して生徒とともに成長し、学び続けていきたいです。

◆県内高校生を対象とした事業「とこは人材育成プロジェクト for High School」

「総合的な探究の時間」で課外活動の機会を探している高校や、日頃から意欲的に課外活動に取り組む高校生を支援するため、今年度から新たに県内高校生を対象とした事業「とこは人材育成プロジェクト for High School」を開始しました。本事業には県内高校生80名が参加し、そのうち42名が青少年指導者の初級資格認定を受けました。また、3月には草薙キャンパスにて、認定証授与式および研修会を開催し、大学生と一緒に「社会課題」と「多主体連携」について講義を受けました。生徒・学生はケーススタディのディスカッションを通じて、意見を発信する重要性や具体的なアプローチ方法、技術を学びました。



地域・社会貢献活動事例

◆子育て・教育

小学生と
英語交流活動を実施草薙 C
外国語学部

6月8日、英米語学科の2～4年生26名はキッズ・コミュニケーションの授業の一環として、クサナギ・アリーナ(体育館)にて、近隣の小学生と保護者約60名を招き、授業で学んだ子ども向けの英語ゲームを実践する英語活動を行いました。当日は、Wolf(だるまさんがころんだの英語バージョンのようなゲーム)やItem Tag(英語でオニごっこ)等、子どもたちは、体育館の中をたくさん走り、体を動かしながら英語に親しみました。保護者も参加するゲームもあり、親子一緒に英語に親しむこともできました。この活動は7・10・12月にも同様の活動を実施し、学生たちは実際の小学生へ英語活動を行う楽しさや難しさを学びました。

スポーツクラブセインと
合同イベントを開催草薙 C
保育学部

連携・協力 スポーツクラブセイン

11月23日、保育学科はゼミの一環として、スポーツクラブセインと合同で「秋の親子スポーツ&グルメday」を草薙キャンパスで開催し、運動と食育をテーマにブース出展しました。運動ブースはサーキット(トンネル、平均台、輪投げ等)、ドラウタビリティ(体を動かしながら敏捷性や判断力、思考力を養う遊び)等を実施し、食育ブースでは揚げないチップス、豚汁、カボチャクッキーを提供し、参加者や学生も、クイズや楽しい遊びを通して食材への理解を深めることができました。午後は、大学内で地図を片手に大学内の星印を探し、ミッションをクリアしていく宝さがしを実施し、迷路のような大学内で楽しく参加する様子も見られました。



近隣保育施設の子どもたちを招いて「トコトコのもり」を開催

草薙 C
保育学部
短期大学部

連携・協力 近隣幼稚園・保育施設

保育学部と短期大学部保育科では、令和5年度より近隣の保育施設の子どもたちを招き、広々としたキャンパス内の施設において、学生と子どもたちと一緒にさまざまな遊びやレクリエーション等を行う「トコトコのもり」を開催しています。10月28日は、幼保連携型認定こども園若竹こどもの森の皆さんが本学を訪れ、「子どもあそびひろば」企画で、アンバランスな環境を楽しむ「グラグラランド」をテーマにエアートラック(空気の入ったマット)ランド、バランスボールランド、リングボールランドの3つの遊びランドで自由に遊びました。子どもたちは、自由に遊ぶ中で、多様な遊び方を生み出し、学生も一緒になって遊びを発展させる姿が見えました。特に短大保育科2年生は、これまでの実習経験を踏まえ、子どもと共に遊び込み、遊びを発展させる貴重な実践経験の場となりました。



11月の「造形ワークショップ」には南八幡幼稚園、12月の「音楽ワークショップ」には常葉大学附属こは幼稚園の園児たちが保育士を目指す大学生と楽しく過ごしました。参加した園児たちは「造形ワークショップ」では大きな紙にお絵かきしたり、段ボール迷路に落書きしたりと大盛況でした。「音楽ワークショップ」ではピアノやフルート演奏に夢中になって聞き入っていました。子どもたちからも「また来たい!」との声が聞かれました。このような活動を通して、子どもたちが喜び、大学生は楽しみながら保育の学びを深め、幼稚園・保育所・こども園等の子育て施設との交流を通じて、地域に貢献できる学部・学科を目指しています。

◆子育て・教育

附属幼稚園と合同で 「たちとこ夏祭り」を開催

連携・協力 常葉大学附属たちばな幼稚園

草薙 C
保育学部

7月5日、常葉大学附属たちばな幼稚園と保育学部「トコトコのもり」実行委員会で、「たちとこ夏まつり」を合同開催しました。大学生は、「かみひこうき」「わなげ」「金魚すくい」「プラネタリアムドーム」等を企画し、草薙キャンパスにお越しいただいた大勢の園児と保護者の皆様に楽しんでいただきました。参加した学生は保育の学びを、子どもたちとの遊びと共に実体験しながら、多くの笑顔があふれた楽しいイベントとなりました。



「しずおか高校生 探求フェスタ」を開催

連携・協力 静岡県教育委員会

水落 C
学生有志

1月26日、水落キャンパスで、静岡県教育委員会と常葉大学の共催による「しずおか高校生探求フェスタ」を開催しました。交流部門には58チーム、展示部門には14チーム、コンテスト部門10チームと多くのチームに参加いただきました。当日は、学生スタッフが、開会式、交流会、閉会式の運営やファシリテーター等を担当しました。高校生に満足してもらえる「しずフェス」にするため、当日の参加者の意見をどのように発表者へフィードバックしていくのか、ICTを活用し効率的・効果的な方法を検討してきました。年度初めから長い期間をかけて準備を行ってきたかがあり、大盛況のもと最後までやり遂げることができました。



キッズオープンキャンパスを開催

連携・協力 浜松市北消防署・自衛隊静岡地方協力本部、鹿島木材㈱、Honda FC

浜松 C
地域貢献センター

7月20日、本学浜松キャンパスでは地域の子どもたちに大学を開放し、学びの場を提供する「キッズオープンキャンパス 2024」を開催しました。英語・科学実験・工作・運動あそび・防災等、各学科の学びや日頃の活動を活かした21講座を開講しました。「浜松産の野菜を使ってポテトスティックを作ってみよう！」では地元浜松の魅力を発信しようと、健康栄養学科の学生が地産地消を促す食育講座や、「みんなでお茶しよう！緑茶のいれかた講座」では、世界のお茶や茶葉の違いを学びおいしい緑茶の入れ方を体験しました。また、「天竜木材を知って、触って、作ってみよう！」では、地元企業にご協力いただき浜松市が誇る「天竜木材」



を学ぶ講座も開設しました。参加者からは「浜松の魅力を学ぶことができる貴重な機会となりました。夏休みの自由研究を通してもっと天竜木材を知りたい」と話しました。さらには、出世大名家康くんや直虎ちゃん、非公認キャラクターの信康さんも登場しイベントを盛り上げました。その他、地元の消防や自衛隊、Honda FC等のブースもあり、地域と連携したイベントを実施し、560名の親子が参加しました。今年度で12回目の開催となり、教員の指導のもと、各学科から約240名の学生が講座を企画運営し、地域の子どもたちに、新たな学びの場を提供しました。



◆子育て・教育

自然体験の楽しさを伝える 「とうもんの里 秋のキッズフェス」

連携・協力

静岡大学地域創造学環フィールドワーク
田園空間博物館とうもんの里総合案内所

浜松 C
Sun&Leaf

11月17日、掛川市にある田園空間博物館とうもんの里総合案内所で、こども健康学科学生有志で構成するSun&Leafは、静岡大学の学生と連携して「とうもんの里秋のキッズフェス」を開催しました。このイベントは、地域の自然、農業、歴史や伝統文化を保全、継承することを目的としており、当日は竹を使った手作りの輪投げや玉入れ、松ぼっくりツリーづくりの体験を行いました。また、Sun&Leaf企画の「みんな



でダンス」では、音楽に合わせて自然の中で踊ったり、楽器を演奏したりして、子どもたちとの交流を楽しみました。活動後は、おいべっさん(えびす講)を祀る郷土料理を食べながら、1日の活動を振り返りました。Sun & Leafでは、「自然体験」を地域の子どもたちと実践し、企画力や実行力を身につけています。

浜松市内小学校にて 運動講座の実施

連携・協力

浜松市内協働センター・小学校

浜松 C
健康プロデュース学部

将来、運動指導者をめざす学生が多く所属する心身マネジメント学科井口ゼミの学生は、浜松市内小学校にて「めざせアスリート！



～走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き～」講座を開講しました。講座では、大学で学んだ知識を生かしながら、児童たちに高く跳んだり速く走ったりするための筋肉の動きを説明して、一緒に身体を動かしました。また、腕振り・腿上げの基本動作とスキップ、変形ダッシュ等様々な動作を取り入れ、運動の好き嫌いにかかわらず全員が楽しく学んでもらえるような工夫をしました。その他にも「Let's Dancing!!」講座を開講しました。井口ゼミでは、地域貢献を兼ねて実践経験を積んでいます。

「スヌーズレン」の効果を利用した講座の実施

連携・協力

浜松市庄内協働センター

浜松 C
保健医療学部

発達段階における作業療法を学んでいる作業療法学科の遠藤ゼミの学生は、浜松市庄内協働センターにて、子ども向けの講座「スヌーズレンひかる紙芝居・絵本をたのしもう」を開講しました。講座では、五感を刺激しながら展開するスヌーズレンの効果を利用した紙芝居や絵本の読み聞かせを行いました。暗室の中で学生が絵本のページをめくるたびに子どもたちは物語の世界へ引き込まれて、不思議な空間を楽しみました。学生は、現在、教育・医療・福祉の分野で取り入れられているスヌーズレンの実践経験を積み、子どもの発達支援や認知症の人々等様々な分野で活用できる力を磨いています。



浜松市内小学校にて ダンス講師を担当

連携・協力

浜松市立北浜北小学校

浜松 C
ダンスサークル

ダンスサークルは、10～11月にかけて全4回にわたり、浜松市立北浜北小学校の4～6年生25名を対象にダンス講師を務めました。これは地域交流の一環でクラブ活動の運営に協力するもので、日頃の経験を地域に活かすことを目的として参加しました。学生たちは、ダンスを楽しんでもらえるよう基礎ステップを多く取り入れ、2パターンの課題曲で振り付けを考案し、2グループに分かれて児童に



交互に指導を行いました。また、タブレットを使って動きを記録し、児童同士で互いの動きを確認し合うことでより良い動きになるようにアドバイスをしました。この活動は、年齢に合わせた指導プログラムを構成する、自分の経験を活かすという貴重な体験となりました。

◆一般・スポーツ

三保海浜マラソンを開催

草薙 C
社会環境学部

1月18日、社会環境学科4年の宮城嶋開人さんが、第3回目となる「三保海浜マラソン」を開催しました。この大会は、宮城嶋さんの知人や地域の有志の方達からなる実行委員会で運営しています。参加者が松林を清掃したり、砂浜を走ることが特徴の大会です。本大会は砂浜を走るレースの部(1.2km/2.5km/5km)のほか、誰でも参加しやすいウォーキングツアーの部(約2km)やふじさんの部(223m)が実施されました。過去最多の310人が出場し、来場者は500名程の大会になりました。参加者からは「地元の良さやスタッフの温かさを感じられる、非常に有意義な機会であった」と声が寄せられました。宮城嶋さんが大学2年生から始めたこの活動は、非常に意義深いものになっています。



浜松シティマラソンにてランナーのケア活動を実施

連携・協力 浜松市スポーツ振興課
(公財)浜松市スポーツ協会

浜松 C
健康プロデュース学部

2月16日、アスレティックトレーナーを目指す学生団体CATSと健康柔道整復学科の学生有志計10名、心身マネジメント学科の小柳好生教授、吉田早織准教授、箱崎太誠講師が、「第21回浜松シティマラソン」の会場で、セルフケア指導を行いました。ブース内では、走り終えたランナーを対象に、フォームローラー(ストレッチボール®)を使って腰の疲労感、足のむくみの軽減が期待されるストレッチを指導しました。参加者からは、「足首や腰等、日常のケアやけが予防に効果があるストレッチ方法を知ることができた」との感想があり、参加者に対し、当日だけではなく日常での実践へと働きかけることができました。



FUKUROI SPORTSDAY にてブース出展

連携・協力 袋井市スポーツ政策課

浜松 C
健康プロデュース学部

11月17日、心身マネジメント学科吉田ゼミの学生は市民のスポーツに対する取り組み意欲の喚起を目的と



した「FUKUROI SPORTS DAY2024」にてコーディネートトレーニングブースを出展しました。ブースでは、全身反応測定機を使用した俊捷性の測定や目やバランスを鍛える運動体験を行いました。また、指示通りに5色のボタンを素早く押して機敏性を養うスポトレ・カラータッチでは、行列ができることもあり、延べ約200名の方に体験していただくことができました。

これらの活動を通して、運動の基本動作や認知能力を高める機会を提供することができました。

小学生20チームを招いてトコハフェスを開催

連携・協力 (株)ぢしぢし

浜松 C
サッカー部

9月28・29日の2日間、(株)ぢしぢしにご協賛いただき、「トコハフェス」を開催しました。これは、サッカー部の地域貢献活動として開催され、このイベントを通して常葉大学サッカー部を知ってもらい、地域の方々に応援していただける、愛されるチームになることを目的として行いました。大会には静岡西部地区の少年団や地元クラブ20チームが参加し、初日はリーグ戦、翌日は順位決定戦を行いました。部員は審判や進行、誘導等、運営側として活動し、普段の部活動では味わうことができない地域とのつながりを体験しました。

大会は大いに盛り上がり、地域子どもたちにスポーツの楽しさを伝える機会となりました。



◆防災活動

しずおかランニング
パトロールを実施

連携・協力 (株)静岡新聞社・静岡放送(株)・静岡県警察

草薙・水落C
学生有志

草薙・水落キャンパスの学生と職員が、6月と11月にしずおかランニングパトロールの活動を実施しました。この活動は(株)静岡新聞社・静岡放送(株)と静岡県警察が推進する防犯プロジェクトで、街中をランニングしながら防犯パトロールを行います。草薙キャンパスでは、6月の3日間にわたり活動し、水落キャンパスでは、11月の2日間、地域のパトロールを行いました。参加者は蛍光ビブスを着用し、積極的に挨拶を交わしながら防犯活動に努めました。参加した学生たちは地域の方々とのコミュニケーションの重要性を学び、活動の意義を実感しました。今後も継続して地域の安全に寄与していきます。

防犯ヤングボランティアに
委嘱

連携・協力 静岡県細江警察署

浜松C
健康プロデュース学部
保健医療学部
ThunderBirds

7月8日、作業療学科吉田ゼミの学生をはじめとする、浜松キャンパスの学生11名は、静岡県細江警察署より防犯ヤングボランティアとして委嘱を受けました。10月16・17日には、国が指定する「安全安心なまちづくりの日」にちなみ、浜松市立都田小学校で下校時の見守り活動「まもろーる」に加え、保護者に啓発チラシの配布を行いました。また、杏林堂細江店において、店舗来店客に対して防犯啓発チラシを配布しながら、県内における特殊詐欺の発生状況や最新の手口について説明を行いました。地域の防犯活動に学生が関わることで活動の活性化が期待でき若い世代に対しても関心を高めるきっかけになりました。



◆地域活動

フードドライブ活動を実施

連携・協力 (株)静岡銀行・常葉大学附属常葉中学校・高等学校

全キャンパス
学生スタッフ Link
ココスタ

昨年度に引き続き、地域貢献センターは学生有志団体とともに、本年度もフードドライブを実施しました。フードドライブは、家庭で余っている食品を集めて、地域のフードバンクや生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動です。静岡キャンパスでは「Link」の学生が、浜松キャンパスでは「ココスタ」の学生が中心となり、呼びかけを行いました。集まったレトルト食品やお菓子、乾麺等は、それぞれフードバンクふじのくにと浜松市社会福祉協議会北地区センターに寄付されました。1月の活動では、静岡キャンパスの「Link」の学生が、(株)静岡銀行や常葉大学附属常葉中学校・高等学校と協力し、近隣の機関や学校と連携したフードドライブを実施しました。



事前に各キャンパスの食堂や大学周辺事業所への告知を行い、学生・教職員をはじめ、(株)静岡銀行や常葉大学附属常葉中学校・高等学校、地域の事業所からも多くの協力が得られました。浜松キャンパスでは、学内だけでなく地域の方々にも協力を呼びかけ、本学主催イベント等でチラシを配布し案内を行いました。学生ボランティアが中心となり、事前の校内放送や当日の回収場BOX付近での呼びかけを行いました。この結果、両キャンパスとも1回目を大きく上回る食品を集め、寄付することができました。これらの活動を通じて、地域の支援団体に貢献できただけでなく、学生たちのボランティア精神が育まれ、地域課題に対する連携の重要性が一層明確になりました。地域貢献センターでは、来年度以降も定期的に活動を実施する予定です。



地域・社会貢献活動事例

◆地域活動

大学祭にて「お祭り展覧会」を企画・開催

草薙・瀬名・水落 C
学生スタッフ Link

連携・協力 横須賀高等学校郷土芸能部・清沢神楽保存会

地域貢献センター学生スタッフ Link は、水落キャンパス大学祭「水落祭」(10月27日)と草薙キャンパス・瀬名キャンパス大学祭「心薙祭」(11月2・3日)において、「お祭り展覧会」を開催しました。本事業は、地域の現状とお祭りを知ってもらうことを目的に、「静岡県の祭り」、「人口減少とお祭り文化継承の重要性」、「三社祭礼囃子」、「清沢神楽」の4つの項目の視点から具体的な企画が立てられました。

展示制作のほか、心薙祭では、実際にお祭りの雰囲気を感じてもらうために、「横須賀高等学校郷土芸能部」と「清沢神楽保存会」の皆様にお越しいただき、演舞を実演していただきました。11月2日の「三社祭礼囃子」、3日の「清沢神楽」の実演には、各日100名以上、合計299名の方が観覧し、地域文化の高い価値を感じただけでした。この取組は、地域のお祭りの継承活動や地域文化の保存活動を多くの方に応援していただくきっかけとなり、地域課



題の解決に向けた小さな一歩となりました。また、展示会場を含めた会場全体には、水落祭と心薙祭の両日合わせて1,351名と大変多くの方に来場いただきました。この「お祭り展覧会」は、多くの方にご好評をいただき、新聞やテレビにも取材されました。今回の取組は、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていた学生スタッフ Link にとっても、本格的な地域貢献活動再開の契機となりました。学生スタッフ Link は、皆様のご理解とご協力を得ながら、本学の教育理念である「地域貢献」に資する活動を学び、実施していきたいと考えています。今後は、企業や地域と協力して活動の幅を広げていく予定です。

県立美術館にて
地域文化財の保護と活用

連携・協力 静岡県立美術館

草薙・瀬名 C
教育学部
造形学部

4月28日、生涯学習学科と造形学科の博物館実習クラス19名は、静岡県立美術館の敷地にある「杉山彦三郎記念茶畑」のお茶摘みイベントをお手伝いしました。杉山彦三郎記念茶畑は歴史的意義のある茶畑で、県立美術館ボランティア「草薙ツアークループ」が保護と活用に取り組んでいます。茶摘み作業では茶娘の服を着せていただき、雰囲気作りにも協力しました。また、夏の除草や追肥作業をお手伝いし、10月28日には、摘んだ茶葉による呈茶サービスに参加し、来館者約160人にお茶を楽しんでいただきました。学生たちはボランティアの方々と交流する中で、美術館のボランティア活動や地域の文化財について学ぶことができました。

自然体験ワークショップ等の
イベントを企画・実施

連携・協力 みんなの公民館まる・はっぱちゃん☆world

草薙 C
サステナブル

サステナブルは、令和6年7月に結成された任意団体で、静岡市内の大学生を中心とした12名で構成されています。“持続可能な面白い社会”を理念とし、多様なメンバーがいることを活かして、やってみたいことを実現させます。今年度は、人々の環境意識向上を目的として、自然の魅力に触れるきっかけとなるイベントを複数企画しました。具体的には、自然体験ワークショップやツリーハウス作り、人と自然の発展をテーマとしたゲームの体験会等です。また、他団体のイベントや地域・団体の交流会、その他勉強になる機会等にも積極的に参加しています。今後も様々な方々と関わりながら、持続可能な社会に関する活動を楽しんでいきます。



◆地域活動

地域保全活動に参加

連携・協力 静岡県・富士山ネットワーク

草薙 C
社会環境学部

10月26日、富士宮市の根原草原県有地で静岡県と富士山ネットワーク主催の「富士山草原性植生保全活動体験」に、社会環境学科の学生25名と教員3名が参加し、県有地の草原性植生の維持に欠かせない草刈り作業や外来植物のキクイモ駆除のためにキクイモ掘りをしました。キクイモ掘りでは収穫したイモの大きさや数を競い、活動を楽しみました。また、浅見教授と大学院修士1年増田敦人さんが講師となり、根原草原の重要性についてのセミナーを開催しました。その他、社会環境学部では20年にわたり続けている石部棚田の保全活動や、麻機遊水地（静岡市）の特定外来植物ナガエツルノゲイトウの駆除作業に参加する等、様々な自然環境の保全に取り組んでいます。



草薙神社・静岡浅間神社への絵馬奉納

連携・協力 静岡浅間神社・草薙神社

瀬名 C
造形学部

造形学科デジタルコミュニケーション領域の2年生6人が制作した干支大絵馬が、12月13日に静岡浅間神社で飾られ、太陽が登る赤富士を背景に描かれた白蛇が来年の変化と発展を願うシンボルとなりました。静岡浅間神社への絵馬奉納は、13年目を迎え、造形学部の恒例の地域貢献活動となっています。

また、12月21日には、草薙神社でも大絵馬が飾られました。同日に行われたお披露目には学生代表が参加し、新たな成長と再生を象徴する干支「乙巳(きのとみ)」に祈願を込めて発表しました。日本武尊と蛇が対峙する絵は、和解と平和を象徴しており、多くの来場者がその価値を感じました。



浜岡原発の資材を活用した作品を制作

連携・協力 中部電力(株)

瀬名 C
造形学部

中部電力(株)からの提案により、造形学科アート領域の磯崎ゼミの学生が、浜岡原子力発電所で発生したクリアランス金属を利用した彫刻作品を制作しました。活動は発電所への見学から始まり、リサーチやグループワークを経て、鉄塔とあやとりをモチーフとした作品「光線の綾」を完成させました。約7カ月の制作期間を経て、12月21日に浜岡原子力館でお披露目会が行われ、現在も展示されています。



この取り組みは、電力と地域のつながりを再認識していただくと同時に、クリアランス金属の再利用に対する認知拡大と理解促進が期待されています。

駿府城探検で小学生とフィールドワークを実施

連携・協力 駿府城を愛する会

水落 C
法学部

6月1日に開催された「駿府城探検～家康公の政治外交の舞台だった本丸御殿跡を探検しよう～」(主催：駿府城を愛する会)に法律学科丸岡ゼミの学生6名が参加し、小学生とともにフィールドワークを行いました。

学生たちは、駿府城本丸御殿跡等を散策しながら「お堀の種類」や「家康お手植えみかん」等のクイズを出題し、駿府城は徳川家康公が日本の政治外交を行った歴史的な重要性のある地であるということを、小学生に分かりやすく伝えました。学生からは「戦いの場から政治・外交の中心となった駿府城を再認識した」「この経験を次に活かしたい」等の感想が聞かれ、積極的に地域に出ることの大切さを学ぶことができました。



地域・社会貢献活動事例

◆地域活動

おまちクリーン キャンペーン 2024 に参加

連携・協力 I Love しずおか協議会

11月28日、水落キャンパスの学生・職員が、I Love しずおか協議会主催の「おまちクリーンキャンペーン2024」に参加しました。この活動は、静岡市中心市街地“おまち”の活性化と快適な街環境の整備を目的としています。早朝から約1,500人がJR静岡駅周辺でごみの収集を行い、常葉大学のグループは水落キャンパス周辺と伝馬町・鷹匠エリアを清掃しました。作業中には地域企業の方々との交流も見られ有意義な活動となりました。今後も地域の活動に積極的に参加し、地域活性化に貢献していきます。



水落C
学生有志

都田朝市を開催

連携・協力 地元の生産者・販売者

11月2・3日、浜松キャンパスにおいて都田朝市を開催し、計11団体が出店しました。このイベントは、様々な農産物や加工品を展示・販売することで地産地消を推進し、都田地区から近隣地域へ地域力をアピールすることを目的としています。また、若い世代が地域に関心を持ってもらえるような機会になること、地域の方々との交流の場となることを期待し実施しています。今年は経営学科中津川ゼミの2年生が運営に協力しました。学生らは事前に店舗紹介ポスターを制作し、来場者への声掛けや、ステージで各店舗の紹介を行うことで、売上に貢献しました。また、お店に入って出店者の販売をお手伝いすることで地域の方々との交流を深めることができました。



浜松C
地域貢献センター

市民交流フェスタを開催

連携・協力 浜松市内地域貢献ネットワーク(常葉大学・浜松学院大学・静岡文化芸術大学・浜松医科大学)・イオンモール浜松志都呂

9月20・21日、常葉大学・浜松学院大学・静岡文化芸術大学のサークルやゼミ等計18団体がイオンモール浜松志都呂において「市民交流フェスタ2024～みんなで学ぶSDGs～」を開催しました。これは、大学・学部、専門領域の垣根を超えて学生が集い、SDGs17の目標を意識した展示や体験イベントを通じて、「SDGs未来都市・浜松」の推進に向けて開催されたもので、今年度で4回目となります。今年本学からは経営学科の学生が実行委員を務め、6月から浜松市SDGs推進プラットフォーム会員の企業・団体を中心に協賛金を募り1からイベントを立ち上げました。

当日、常葉大学からは経営学科・こども健康学科・心身マネジメント学科・健康鍼灸学科・作業療法学科のゼミや

サークルから6団体、ボランティアサークルThunderBirdsがブース出展を行いました。Sun & Leaf(こども健康学科)では、SDGs12番の「つくる責任つかう責任」と絡め、牛乳パックやペットボトルの廃材を使用してこまとペン立ての作成を行いました。子どもたちは学生のサポートのもと、シールやペンでアレンジして、出来上がった作品を保護者の方に自慢していました。作業療法学科では、デュアルタスク・カラータッチを用いて「SDG～ズクリーン大作成」と題した、画面に表示されたダンボールやアルミ缶等を識別表示と一致させるシリアスゲームを通じて、リサイクル意識を高めました。本事業は、浜松市内大学地域貢献ネットワーク(常葉大学・浜松学院大学・静岡文化芸術大学・浜松医科大学)と学生実行委員会が主催し、両日で延べ206人がイベントを盛り上げました。



浜松C
地域貢献センター

◆地域活動

はままつ北フェス 2025 に参加・協力

連携・協力 浜松市北行政センター

浜松C
地域貢献センター

3月2日、浜松市北地域の魅力発信を目的として「はままつ北フェス 2025」が浜松市主催で開催され、本学から4団体の学生と有志学生が参加し、運営に協力しました。多目的広場では、日頃から運動機会の提供を行っているぷれぐろラボの学生が「みんなで楽しむ〇〇ゴルフ」と題して、グラウンドゴルフとディスクゴルフの体験ブースを運営しました。「楽しかったからもう一回体験したい」と何度も体験に参加してくれる児童もあり、体験の回数を重ねるごとに成長する場面に立ち会うことができました。

多目的広場の横通路では、3団体が出展しました。健康栄養学科の学生団体 TOKOFARM は、地産地消の促進を目的とした商品開発を行っており、ジェラートの試食とアンケート調査を行いました。健康鍼灸学科の学生団体美鍼会は「耳ばり」体験会を行いました。花粉症対策に有効な耳



ツボを体験すると参加者は効果が楽しみと期待していました。ボランティアサークル ThunderBirds は、防災ホイッスルの作成とマイ防災バックを考える体験コーナー、防災グッズの展示を行いました。体験コーナーでは、下校見守り活動で接している児童との再会もあり、和やかな雰囲気体験していただくことができました。

この日は、鍵盤ハーモニカを5分以上同時に演奏し続けた人数のギネス世界記録にも挑戦し、学生が運営協力しました。地域住民が一丸となり905人と記録更新することができました。学生らは地域住民との交流を楽しみながら、イベント運営を学ぶ良い機会となりました。



健康・スポーツフェス 2024 を開催

浜松C
地域貢献センター

11月2・3・23日の3日間、とこはわくわく元気プロジェクト「健康・スポーツフェス 2024」を開催しました。健康分野では、大学の専門知識を活かし、地域の方に健康を見直す機会にさせていただこうと健康プロデュース学部の学生らが「みんなの体力測定」を実施しました。「脳体力」といわれる記憶力や注意力等の5つの認知機能をゲーム感覚で測定したり、静岡県独自の「ふじ33プログラム」を活用したロコモ度チェックを実施したりしました。また、日頃のからだの不調から姿勢改善を促すための「姿勢測定」のほか、子どもを対象にした「体力・運動能力チェック」も行いました。上体起こしや握力、ボール投げ等の測定をし、その結果を親子で振り返り、保護者に記録してもらいました。子どもから高齢者まで多くの方にご参加いただき、学生にとっては学部学科の学びに理解を深め、地域の方との交流のなかで学びを得ることができました。



スポーツ分野では、学生の日頃の活動や学びを活かしスポーツの楽しさを伝えることを目的としてバラスポーツ・野球・陸上・バスケットボール・サッカー教室を行いました。「エンジョイ・ベースボール」では、硬式野球部員らがボールの投げ方や打ち方の基本を1対1で指導を行った後、各チームに分かれて試合を行いました。試合ではホームランを打つと歓声とともに会場は一体感に包まれ、大いに盛り上がりました。参加者との交流の中で、学生らは普段見られないような場面を見ることができ、良い学びの機会となりました。今後も地域の方の健康づくりと運動機会の向上に貢献していきます。



◆地域活動

まちなか文化祭に出展

連携・協力 浜松市産業振興課

浜松 C
地域貢献センター

11月24日、若者による中心市街地のにぎわい創出および若年層の交流を目的とした「浜松まちなか文化祭」が浜松市主催で開催され、本学から3団体が出店しワークショップを行いました。健康栄養学科の学生団体TOKOFARMは、地産地消の促進を目的とした商品開発を行っており、この日は考案した2種類のブルーベリージェラートの試食とアンケート調査を行いました。イベント中には中野祐介浜松市長も訪れ、本学の学びや学生の活動を間近でご覧いただき、知っていただく機会となりました。この日、学生たちは参加者との交流を通じて、多くの方とコミュニケーションをとることができました。



浜名湖サービスエリアにて学生考案商品を販売

連携・協力 (株)近鉄リテーリング

浜松 C
健康プロデュース学部

常葉大学と浜名湖サービスエリアは第78回全国お茶まじりの応援企画として「お茶を使った創作メニューコンテスト」を開催しました。これは、学生が地元のはままつ茶や食材を活用したメニューの開発を行うもので、応募総数28点の中から、書類審査、技術審査を経て健康栄養学科2年の堀川耀生さん、赤堀光さんの作った「茶ル茶ルソースのチキン南蛮丼」がグランプリを獲得しました。この商品には、茶葉を入れて炊いた茶飯に粉末茶を使ったタルタルソースをかけており、手軽な丼ぶりでも栄養が摂れる一品です。開発された商品は浜名湖サービスエリアのフードコートにて販売されました。



野菜摂取啓発活動を実施

連携・協力 浜松市健康増進課

浜松 C
健康プロデュース学部

4月5日、イオンモール浜松市野で開催された「健康づくり応援フェア」に、健康栄養学科の学生が野菜摂取の促進活動を行いました。このイベントは、浜松市とイオンモール浜松市野が連携して行っている健康づくりの取り組みで、皮膚カロテノイド測定器(ベジメータ®)を使い、野菜摂取状況を数値で見える化することで自身の野菜の摂取状況を知り、一日に必要な野菜摂取量の理解を向上させ、食生活を見直すきっかけとして実施するものです。学生は、参加者に普段食べている野菜の量を天秤にのせてもらい、一日の必要野菜摂取量と不足分を確認してもらいました。参加者の摂取状況から一日の理想的な野菜摂取量と種類、バランスを伝えることでさらなる健康増進へと発信することができました。



次世代リーダー発掘プロジェクトに参加

連携・協力 (一社)浜松青年会議所

浜松 C
健康プロデュース学部

地方から社会を変える次世代リーダー発掘プロジェクト「NEXTLOCALLEADERS浜松2024」の最終選考会が10月27日、オークラクトシティホテル浜松で開催されました。この日、ファイナリストとして選考された、心身マネジメント学科3年の坂下優希さんが公開ピッチを行いました。坂下さんは大学2年生の頃から浜松市消防団29分団の一員として予防広報や自主防災活動を行っています。また、大学3年生から「浜松市消防団学生広報隊」に所属し活動しています。活動のなかで「消防団員数の減少」を喫緊の課題だと感じ、「若者が積極的に消防団に入る仕組みづくりや防災に関する知識の啓発活動」を提言しました。



◆地域活動

はままつフラワーパーク 芸術祭を開催

連携・協力 (公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

浜松 C
経営学部

6月9日、経営学科中津川ゼミは浜名湖花博 2024 の会場であるはままつフラワーパークにて「はままつフラワーパーク芸術祭」を開催しました。これは学生の視点から「浜名湖花博 2024」の集客に貢献する事業を考案し、イベントを通して、県内外に向け浜松の魅力発信を促進することを目的に、学生が一から企画を行いました。地元企業に企画のプレゼンをして資金調達を行った結果、26社の企業・団体から協賛金をいただき、出演団体への交渉や当日の運営等、すべて学生で準備を行いました。当日は約1,800人もの来場者が訪れ、地元高校生による吹奏楽やダンス、書道パフォーマンス等のステージイベントを楽しみました。



浜松市主催ごみ減量 イベントに出演

連携・協力 浜松市一般廃棄物対策課

浜松 C
地域貢献サークル Cocoa

9月8日、浜松市主催の「ごみ減量チャレンジ Day～みんなでサステナブル!?～」が遠鉄ホールで開催され、地域貢献サークル Cocoa の学生4名は引佐まちづくり協議会と連携して作成したごみ減量すごろくの紹介やトークセッションに参加しました。トークセッションでは、ゴミ清掃員として働くお笑い芸人や企業の方とともに「日頃意識して行っているごみの分別」について話し合いました。学生が授業プリントの分別法について発言すると、芸人からつっこまれる場面も見られ、会場は笑いに包まれました。また、ホール外では、ブース出展を行い、ゴミ減量動画の紹介やクイズを行い、参加者にごみ減量の目標量や意義を伝えました。すごろく作成やイベントを通じて地域課題に取り組む機会となりました。



ユニバーサルスポーツ フェスタに参加・協力

連携・協力 (株)テレビ静岡・静岡ボッチャ協会・(一社)ASOBI

浜松 C
健康プロデュース学部
障☆スポ SC

10月5日、このはなアリーナで開催された「ユニバーサルスポーツフェスタ」に浜松キャンパスから3団体が参加、協力しました。サブアリーナでは障☆スポ SC がボッチャ大会に参加し、イベントを盛り上げました。メインアリーナでは、心身マネジメント学科村本ゼミが浜松市を拠点にインクルーシブスポーツの普及啓発を行う(一社)



ASOBI とともにシッティングビーチボールや車いすバスケットボールの体験ブースを運営しました。企業ブースでは、健康栄養学科の有志で構成する TOKOFARM が、うなぎいもスイーツ開発の研究発表と物販を行いました。来場者との交流を楽しみながらイベント運営について学ぶ貴重な機会になりました。

浜松市青少年の表彰 「善行賞」受賞

連携・協力 浜松市次世代育成課

浜松 C
保健医療学部
地域貢献サークル Cocoa

地域の文化活動や奉仕活動等に積極的に取り組んでいる青少年や団体の活動を奨励し、賞賛する「浜松市青少年の表彰」の受賞式が12月5日、浜松市役所で行われ、個人の部で理学療法学科3年の清水奎成さん、団体の部で地域貢献サークル Cocoa が善行賞を受賞しました。清水さんは自身が所属していた少年野球のクラブチームで高校3年時から指導にかかわり、大学で学んだことを活かし、技術面だけでなく、身体のケアについても指導していることが評価されました。また、地域貢献サークル Cocoa は大学での活動を越え、奥浜名湖商工会と連携し、地域を盛り上げる企画や商品開発を実施していることが受賞に至りました。



地域・社会貢献活動事例

◆障がい・健康福祉

高齢運転者向け イベントでの出展

連携・協力 静岡県自動車学校

草薙 C
保育学部

10月10日、ツインメッセ静岡にて高齢運転者に寄り添った車社会の実現を目的に開催された静岡県自動車学校主催「高齢運転者支援フェスタ」において、昨年度に引き続き、保育学科今村貴幸教授とゼミ学生7名が「健康年齢チェック体力テスト」のブースを出展しました。来場した高齢者向けに握力測定・立ち上がりテスト・2ステップテストの3項目の体力測定を実施し、測定結果に基づいて個別にアドバイスを行いました。参加した学生は、「たくさんの方にご参加いただき、他の学生とも協力しながら楽しく取り組むことができました」と本イベントを振り返り、地域貢献活動を通じて、大きなやりがいを実感する貴重な経験となりました。



「物語」を通じた 高齢者との交流

連携・協力 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園

草薙 C
短期大学部

8月22日、特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園にて、日本語日本文学科の学生6名が、高齢者と交流するボランティア活動を行いました。これは、学科の特性を活かした地域交流として「みんなで愉しむ物語の世界」をテーマに企画されたもので、当日は、昔話「桃太郎」を題材に、ひらがなカード遊びや朗読、紙を丸める「きびだんごづくり」やそれを用いたゲーム、合唱等を通じ、高齢者と和やかに交流しました。高齢者からは「楽しかったよ」「また来てね」等の声があり、学生たちは達成感を感じるとともに、相手に合わせた柔軟な対応やコミュニケーションの重要性を実感する機会となりました。



わかふじスポーツ大会 での運営補助・支援活動

連携・協力 (公財)静岡県障害者スポーツ協会

水落 C
健康科学部

健康科学部の学生、障がい者スポーツ支援クラブのメンバー、中村浩一准教授、菊地美帆教授、徳留静代講師が「第25回静岡県障がい者スポーツ大会(わかふじスポーツ大会)」で運営補助・支援活動を行いました。わかふじスポーツ大会は、県内各地の会場でパラスポーツの15競技が行われる全国大会です。学生たちはこの活動を通じて、陸上競技、ボッチャ、フライングディスク、ボウリング等の選手支援を行う貴重な機会を得ることができました。さらに、パラアスリートを実際に支援することで、机上では得られない多くの学びを得ることができました。



浜松キャンパスにて 赤い羽根共同募金の実施

連携・協力 浜松市社会福祉協議会北地区センター

浜松 C
地域貢献センター

12月、浜松キャンパスで学生有志34名が5日間にわたり赤い羽根共同募金運動を実施しました。これは、福祉活動や災害支援等に活用してもらおうと、浜松キャンパスの学生団体ココスタが企画しました。学生有志らは館内放送で募金の案内を行った後、券売機に並ぶ学生、食事をしている学生等に巡回しながら声掛けをしました。コンビニから出てきた友人に学生が声掛けすると、友人が快く募金してくれたり、駆け寄って募金してくれる学生がいたり、多くの方の善意を感じる機会となりました。5日間の活動で預かった「赤い羽根」はあっという間になくなり、集まった寄付金は、浜松市社会福祉協議会北地区センターへ届けました。



地域交流・連携推進事業

本事業は、本学の教職員が先進的に取組む地域との交流及び連携事業に対して支援を行うものです。「地(知)の拠点」として地方自治体および民間団体等と共同または連携して、地域や産業の活性化等を図ること、研究成果等を地域に還元または情報発信すること等を目的とした事業を行っています。実施年度の翌年9月には事業報告会を開催し、大学内外に向けて事業の成果報告を行います。

◆令和6年度採択事業一覧

No.	事業名	所属	代表者
1	スポーツによる地域活性化を目指した「ベルテックス静岡」との連携事業	教育学部 生涯学習学科	教授 木宮 敬信
2	2つの自治体との連携による日本語教育を通じた日本人住民の多文化共生意識涵養事業	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 坂本 勝信
3	デザイン思考を活用した共創キャンパスプロジェクト(フジ物産株式会社との連携事業)	造形学部 造形学科	准教授 村井 貴
4	人生100年時代を健やかに生きよう！ 常葉オリジナル弁当「TOKOHA デリ」宅配システム構築の試み	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 池谷 昌枝
5	「旬」の農産物を使用したジェラート開発による地域活性化	健康プロデュース学部 健康栄養学科	准教授 杉浦千佳子
6	しずおかの人と自然が響きあう ヒューマン・サウンド・スケープの探究	短期大学部 保育科	教授 遠藤 知里

◆活動事例(一部抜粋)

日本語教育を通じた 多文化共生意識涵養事業

連携・協力 (公財)浜松国際交流協会・焼津市市民協働課

草薙 C
外国語学部

本事業は、(公財)浜松国際交流協会と焼津市市民協働課と連携して実施しました。(公財)浜松国際交流協会との連携事業では、学生20名が外国人住民へのオンライン日本語教育に月に一回計10回取り組み、成果発表会まで寄り添いました。参加した学生からは「普段日本語教員養成課程で学んできた知識やスキルが実践できたが、誤用への適切なフィードバックが難しい」等の感想が聞かれ、教育面の学びを得たことが窺えました。また、焼津市市民協働課との連携事業では、会話パートナーとして学生12名が交互に2か月間日本語教室で学ぶ日本語学習者と対面交流を行いました。

参加した学生からは「日本人も外国人も同じ人間で変わらないと気づいた」等の言葉が語られ、多文化共生意識が涵養された様子が見て取れました。



ジェラート開発による 地域活性化

連携・協力 Migela・オキメモ

浜松 C
健康プロデュース学部

栄養価が高い「旬」の地元食材を活用し、健康や地産地消に関心を持ってもらうことを目的とし、健康栄養学科学生のアイデアと地元企業の



の製造技術により新しいジェラートの開発をしています。

地域のイベントでは、地元の「ブルーベリー」を使用し、原価率と栄養価を調整しながら作ったもの、栄養が豊富でさまざまな健康効果が得られるという「モリンガ」を使用したもの、糖質を抑えるため「甘酒」を使用したもの等5種のジェラートの試食会とアンケート調査を行いました。今後、アンケート結果を踏まえ、改良を重ね、卒業生の経営する「Migela」での製造と販売を検討していきます。学生と卒業生の連携で、地域人材の創出と地域産業に貢献していきます。

公開講座

地域住民および一般市民を広く対象とし、本学が標榜する「地域に開かれた大学」の実践の場として、地域社会のニーズに対して提言・提案できるよう、公開講座を毎年開催しています。今年度は、人生 100 年時代を幸せに過ごすための全 16 講座を開講しました。

◆令和 6 年度開講講座一覧

No.	講座名	所属	講師	回数
1	「家族のかたち」からみる世界	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 戸田 裕司 教授 江口 佳子 教授 崔 慶原 教授 増井 実子	全 4 回
2	共生の地域創生を目指した アクティブ・シティズンシップのすすめ	教育学部 生涯学習学科	准教授 那珂 元	全 3 回
3	天気図で感じる日本の四季	教育学部 学校教育課程	教授 山根 悠介	全 4 回
4	ことばと文化 (3) : 英語が拓く新たな教養	外国語学部 英米語学科	講師 那須野絢子 准教授 天野 剛至 教授 小口 一郎 准教授 新妻 明子 特任教授 江藤 秀一	全 5 回
5	身の回りの化学と生命を学ぶ実験講座	教育学部 学校教育課程	教授 三留 規誉	全 3 回
6	大人が絵本をひらくとき Vol.11	短期大学部 日本語日本文学科	准教授 宮本 淳子 准教授 馬見塚昭久 外部講師 田村 敏広	全 4 回
7	「英語で」学ぶ英語の世界	外国語学部 英米語学科	教授 ケビン・デミ 教授 ピーター・ハーディケン 准教授 スティーブ・ユールリック	全 3 回
8	人生 100 年時代を楽しむために 健康寿命延伸による well-being を目指して	保育学部 保育学科	教授 今村 貴幸 助教 富田 エミ	全 3 回
9	宮沢賢治と宮崎駿 風の描き方	短期大学部 日本語日本文学科	教授 小野田貴夫	全 2 回
10	まったくの初心者歓迎くずし字入門 ーかなを中心にー	短期大学部 日本語日本文学科	講師 中野 直樹	全 3 回
11	中高年女性がその人らしく生活するために ーこころとからだの健康ー	健康科学部 静岡理学療法学科 健康プロデュース学部 健康栄養学科 健康科学部 看護学科	准教授 栗田 泰成 講師 中野 聡子 教授 三浦 綾子 講師 毛利 智果	全 4 回
12	転倒リスクに応じた転倒予防対策 ー自分のバランス能力を知り、転倒予防に役立てよう！ー	保健医療学部 理学療法学科	准教授 天野 徹哉	全 2 回
13	こころについて学ぶ臨床心理学講座	健康プロデュース学部 こども健康学科 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	特任教授 柴田 俊一 教授 松瀬留美子 准教授 赤田 太郎 教授 太田 秀樹	全 4 回
14	今から始める “ 知的食生活 ” のすすめ ー人生 100 年時代を幸せに過ごすための食事ー	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 池谷 昌枝	全 2 回
15	被災地で役立つ 東洋医学を用いたセルフケア	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	准教授 村上 高康	全 2 回
16	遺伝子を学ぼう！ ー身近な事柄を遺伝子から理解するー	保健医療学部 理学療法学科	教授 太田 力	全 2 回

◆開講事例(一部抜粋)

天気図で感じる日本の四季／教育学部 学校教育課程

本講座は、季節ごとの天気図の特徴を理解し「天気図で季節を感じる」ことができるようになること、さらに天気図から災害の可能性を予想し被害の軽減につなげられるようになることを目的とし、気象学の基礎的な知識について概説した後、季節ごとの天気図の特徴を解説しました。加えて、豪雨や台風といった災害をもたらす際に典型的にみられる天気図の特徴について解説しました。「天気予報を見るのが楽しくなった」「もっと気象学について知りたい」といった感想を頂き、本講座を通して受講生の気象に対する興味関心を高めることができたと考えております。



宮沢賢治と宮崎駿 風の描き方／短期大学部 日本語日本文学科

宮沢賢治の作品にも宮崎駿の作品にも、「風」に特徴的な表現が見られます。美しく優しい風もあれば、荒々しく破壊的な風もあります。そのまま声になりそうなメッセージを含んだ風もあれば、人とのつながりを断ち切るような風もあります。こうした宮沢賢治と宮崎駿における風の表現の共通点や相違点を、実際の作品を参照しながら、その意味や効果について解説しました。受講者の方々からは、「作品を楽しむための新たな視点を得た」「風に吹かれる日常の何気ない体験を大切にしようと思った」という感想が寄せられました。



こころについて学ぶ 臨床心理学講座／健康プロデュース学部 こども健康学科・心身マネジメント学科

本講座は、臨床心理学の視点から人生の「各ステージ」で遭遇するこころの問題において、4つの領域での問題を臨床心理学の知見に基づいて講義しました。「子育て」では、親の役割やアタッチメントスタイルについて紹介、「教育」では、学校教育における発達障害・不登校等の問題、「産業」では働く人のストレス対応について、「医療」ではこころの病について事例をもとに講義しました。参加者はバウムテストをはじめ、様々なテストを体験し、新たな視点で心理学を学んでいました。30代から50代の現役世代からの参加が多く、参加者の方々は講義の内容に共感したり、驚いたり、新しい知識を得た方が多く、満足度の高い講座になりました。



遺伝子を学ぼう！－身近な事柄を遺伝子から理解する－／保健医療学部 理学療法学科

本講座は、生物の設計図である遺伝子について学び、「人間の体質：血液型・お酒の強さ・二日酔いのなり易さ・耳垢の湿乾型」から「遺伝性のがん・遺伝子組換え作物・新型コロナウイルスワクチン・アルツハイマー病治療薬」等、最近話題となっている身近な事柄を遺伝子の視点から講義しました。途中、アルコールパッチテストも行い、体質の遺伝について実感していただく機会がありました。参加者からは「遺伝子というと難しさを感じたが、例を上げて説明してくださり、とても分かりやすかった」「遺伝子の面白さを感じた」等、丁寧な講義に参加者の好奇心も高まったようでした。講義後、多数の質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。



自治体・企業等との共催・連携事業

静岡市内の生涯学習施設と連携し、公開講座を開催

草薙・水落 C
地域貢献センター

連携・協力 静岡市内の生涯学習施設

静岡市内の生涯学習施設と連携し、地域性や受講生のニーズに合わせた7つの講座を開講しました。

◆令和6年度 共催公開講座 開講一覧

No.	講座名	所属	講師	共催先
1	認知症予防講座 地域の介護サポーターになろう	健康科学部 静岡理学療法学科	准教授 塚本 敏也	興津生涯学習交流館
2	美しい姿勢講座	健康科学部 静岡理学療法学科	准教授 中村 浩一 准教授 栗田 泰成	有度生涯学習交流館
3	シニア 心と体を動かす 楽しいボール運動	短期大学部 保育科	准教授 田村 元延	飯田生涯学習交流館
4	英語で読み解く国際ニュース	外国語学部 英米語学科	准教授 新妻 明子	葵生涯学習センター
5	人生を豊かにする力 「非認知能力」の育み方	保育学部 保育学科	教授 佐野 美奈 准教授 村上 太郎 准教授 伊藤 理絵	西部生涯学習センター
6	国際情勢の“いま”と“これから”	法学部 法律学科 外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	准教授 杉村 豪一 教授 崔 慶原	東部生涯学習センター
7	これからの日本経済はどうなるのか —情報の集め方・読み取り方	経営学部 経営学科	准教授 土村 宜明 准教授 林 信濃 准教授 弘田 祐介	北部生涯学習センター

Re まなび大学リレー講座 に参画

連携・協力 静岡市・大学連携生涯学習事業

草薙 C
教育学部

静岡市と市内6大学（静岡大学、静岡県立大学、東海大学、静岡英和学院大学、静岡理工科大学、常葉大学）は、相互連携による学習機会の提供により、市民の専門化、高度化した学習要求に応えることを目的に、静岡市・大学連携事業として、市内6大学がリレー形式で市民向けの講座を例年実施しています。

令和6年度は「Re まなび=大人の学び。」をテーマに実施し、本学からは心理教育学科中川雄真講師が「睡眠の力とメンタルヘルス」について講義を行いました。受講者からは「大変興味深かった」「睡眠状態を知ることの大切さがわかった」等の感想が寄せられました。



藤枝市・県内6大学と 共同講座を実施

連携・協力 藤枝市・藤枝市大学ネットワーク会議

草薙 C
外国語学部

藤枝市と県内6大学（静岡大学、静岡県立大学、静岡産業大学、静岡福祉大学、静岡理工科大学、常葉大学）は、高校生・大学生を対象に幅広い知見や課題解決に対する多角的なアプローチの仕方を提供し、自ら将来を切り拓く人材を育てることを目的とした共同講座を実施しました。

令和6年度は「人口減少社会における持続可能な地域づくり」をテーマに実施し、本学からは、英米語学科天野剛至准教授が「地域の着地型観光資源を開発・発信しよう！」について講義を行いました。参加した高校生からは「地元をもう一度見直す機会になった」等の感想が寄せられました。



県内の小中学校で「特別理科授業」を実施

連携・協力 常葉大学教育学部附属橘小学校・静岡大学教育学部附属島田中学校

草薙C
教育学部

10月23日、学校教育課程小田切ゼミは本学教育学部附属橘小学校で6年生を対象に「特別理科授業」を実施しました。小田切真教授とゼミ学生が学習指導計画を立案し、附属小理科部教員と協議しながら準備を進め、当日は「大気圧」「電波」「紫外線」をテーマに各1時間の授業を行いました。参加した児童からは、「空気を物として深く考えたことがなかったから新鮮だった」「電波がこんなにも身近なものであると知って驚いた」「いただいた紫外線発見キーホルダーを使っていろいろな実験をしていきたい」等、興味・関心に応じた素晴らしい感想を聞くことができました。

また、2月14日には、静岡大学教育学部附属島田中学校で1年生を対象に「特別理科授業」を実施しました。本授業は、大地の成り立ちと変化



の学習に「岩石の観察」を位置付けた内容を立案し、本学卒業生で附属島田中学校教諭の久保正樹先生のご指導の下、小田切ゼミが仁淀川の石を教材に準備しました。授業では「認識のものさし（類・因果・時系列）」を導入し、各班が500gの仁淀砂利を分類しながら学びを深めました。参加した生徒からは「もっと岩石や石のことを学んで、静岡県の地形だけでなく、他のところの地形等も深掘りしたい」「基準を色々決めて、たくさんの観点から見ることでこの石はどんなところにあったのか推理することができた」「授業を受けて岩石をみる目が変わった」等の感想が寄せられました。今後、小田切ゼミでは授業を通して得られたデータを詳しく分析し、科学教育の在り方を追究していきます。



小学生を対象に「田んぼの生き物観察会」を開催

連携・協力 静岡市登呂博物館

草薙C
教育学部

7月13日、学校教育課程理科専攻久留戸ゼミと登呂博物館との連携事業として、小学生を対象にした「田んぼの生き物観察会」



を登呂遺跡で開催しました。子どもたちは登呂遺跡内にある田んぼの水路等でタモやバケツを使って生物を採集し、その生物をスケッチし、図鑑を用いて名前を調べました。子どもたちは描いたスケッチを遺跡の地図に貼り付けながら発表をし、生き物マップを作成しました。その後、学生が在来種や外来種の話を変えながら、生き物との関わり方についての話をしました。参加した学生からは「理科離れや自然離れが問題視されている中で、子どもたちとこのような活動ができて良い経験になった」との感想が聞かれました。

常葉ちびっこサロンを開催

連携・協力 NPO 法人静岡市里親家

草薙C
短期大学部

6月29日、保育科の鈴木久美子教授の授業「福祉政策と子ども」の受講生が、NPO 法人静岡市里親家庭支援センターと連携して、「常葉ちびっこサロン」を草薙キャンパス「子育て支援室」で開催しました。この交流会は、里親家庭支援の一環として実施され、学生が当日のプログラムを企画し、里親と里子が楽しい時間を過ごすことを目的としています。当日は10人の里子と12人の里親が参加し、屋内外でさまざまな活動をしました。学生たちはこの経験を通じて、子育て支援の境設定や里親制度の理解を深め、貴重な学びを得ることができました。今後も地域の様々な機関と連携し、実践的な活動を行うことで、子育て支援者の養成を続けていきます。



自治体・企業等との共催・連携事業

浜松市と大学との連携事業「大学生による講座」の開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 浜松市内協働センター、浜松市内小中学校

浜松キャンパスでは、浜松市と連携・協力し、各地域の協働センター等で「大学生による講座」を開催しています。日頃の学びや専門性を活かしながら地域社会の生涯学習の推進に取り組み、市民と大学生が互いに自己の学びを深めることを目指して実施しています。

◆令和6年度 浜松市と大学との連携事業 開講講座一覧

No.	講座名	学生所属	団体名	開催場所
1	めざせアスリート！ ～走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き～	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	井口ゼミ	西都台小学校・ 萩丘小学校
2	Let's dancing !!	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	井口ゼミ	中瀬小学校・ 北浜小学校
3	スヌーズレン：ひかる紙芝居・絵本を楽しもう	保健医療学部 作業療法学科	遠藤ゼミ	庄内協働センター
4	ボッチャを楽しみながら学ぶ	保健医療学部 理学療法学科 保健医療学部 作業療法学科	障☆スポ SC	細江協働センター
5	自分で出来るセルフケア	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	SinQ	可美協働センター
6	自分の歩き方、再発見！	保健医療学部 理学療法学科	松村ゼミ	北浜南部協働センター

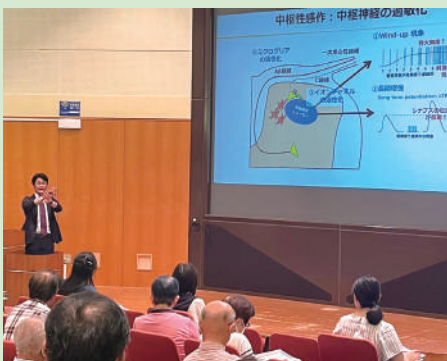
今年度、本学では市内10か所の協働センターから依頼を受け、6講座13講義を小中学校や協働センターで開講しました。受講者はのべ507名、学生講師数はのべ72名と多くの方に本学の学びや学生の活動を知っていただく機会となりました。

浜松市民アカデミーにて 「痛みの原因」講義

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 浜松市中央区役所まちづくり推進課

10月16日、浜松市地域情報センターにて柔道整復学科の安井正佐也准教授が「痛みの原因について体の仕組みを知る～痛みと疲労の関係～」と題し、日頃経験する身体の痛みについて講義しました。これは、市民の生涯学習の機会創出のために浜松市が開催し、市内大学が1講座ずつ担当するオムニバス形式で行われています。講義では、まず痛みを伝える神経の興奮は化学物質刺激、機械刺激、熱刺激の3つから発生すること、また、日頃感じる痛みの原因や「ストレス」と「痛み」の関連性を説明されました。安井准教授は、「痛みは身体の異常を伝える警告信号である。痛みは放置してはいけない」と講義を結びました。



キッズトレーニングを実施

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 (公財)浜松市スポーツ協会

心身マネジメント学科吉田早織准教授とゼミ生は、浜松市における子どもの運動能力の向上や運動機会の創出の課題解決に取り組んでいます。取り組みの1つとして、(公財)浜松市スポーツ協会と連携をし、2歳から小学2年生を対象としたスポーツ教室を雄踏総合体育館で開催しています。この教室は、アスレティックトレーナーとして長年アスリートの指導を行ってきた吉田准教授ならではの観点で、子どものうちに身につけておきたい基本動作の習得や感覚を磨くことを目的に始めました。現在は、コロナ禍の影響を加味し、体力、運動能力の低下にも対応した内容となっています。また、学生が大学で学んだ知識をもとに、運動プログラムを考案し、実際に指導を行う実践の場となっています。



サーラ音楽ホール(浜松市市民音楽ホール)にて講座の開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 サラ音楽ホール(浜松市市民音楽ホール)

浜松キャンパスでは、サーラ音楽ホールと連携し大学のもつ専門性や知的財産を地域に還元するプログラムを提供しており、今年度は健康プロデュース学部の学生が2講座開講しました。

「幼児・児童英語：英語を楽しく歌って遊びましょう！」

12月18日、こども健康学科の教員と学生5名が、幼児・児童を対象に英語と音楽でクリスマスを楽しんでもらおうと企画しました。まず初めに学生たちはクリスマスプレゼントに見立てたカレースカーフを子どもたちに手渡し、クリスマスソングの「to you」に合わせて親子や友達同士でプレゼントを贈るしぐさで挨拶をしました。また、ハンドベルやスズでリズムをとったり、からだを使ってアルファベットを表現したり、思い思いに楽しみました。最後は、福田鈴子准教授が英語でクリスマス絵本の読み聞かせを行い、短時間ではありましたが、子どもの心をつかんだ学生の様子を見ることができました。



「なるこをならして楽しく元気に健康づくり！」

1月15日、心身マネジメント学科田中ゼミの学生5名は、地域住民を対象に鳴子を使って身体を動かすことで五感をフル活用し、より効果的に脳に刺激を与えることができる学生考案の健康プログラムを実践しました。まず、学生らは資料を用いて鳴子の鳴らし方を説明、その後、「踊るポンポコリン」の曲にあわせて参加者に振り付けを披露し、鳴子の音に合わせたダンスを教えました。参加者は学生に「鳴子」の鳴らし方のコツを教わり、大きな音を出す難しさを体感したり、学生の手本を真剣に見ていました。最後には音楽に合わせて全員でダンスをし、鳴子の「カチカチ」という音に合わせて踊ることで一体感や達成感、協調性を高める機会となりました。



地域スポーツ指導者養成講習会

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 (公財)浜松市スポーツ協会

2月19日、「令和6年度 浜松市地域スポーツ指導者養成講習会修了式」が浜松アリーナで行われ、心身マネジメント学科の学生2名に修了証が授与されました。この講習会はスポーツ指導員の高齢化や部活動の地域移行が課題となる中、若い世代に受講してもらうことで将来の地域スポーツ振興の担い手を増やすことを目指すもので、連携協定のもと講師派遣や学内での受講者を募集しています。今年度からは、講習単位数の変更により1年間で取得できるようになり、より参加しやすい仕組みになりました。講習終了後は、浜松市地域スポーツ指導者として登録され、市民の健康増進や地域スポーツ振興のために活動します。



◆令和6年度 地域スポーツ指導者養成講習会 開講講座一覧

No.	テーマ	所属	講師
1	スポーツ指導者の資質スポーツボランティア	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	准教授 村本 名史
2	傷害と障害	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	教授 小柳 好生
3	ウォーミングアップとクールダウン	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	助教 田中 安理
4	インクルーシブスポーツ	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	講師 小西 真幸
5	ジュニア世代への指導法	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	助教 稲垣 友裕
6	競技力向上とコーディネーション	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	講師 箱崎 太誠
7	部活動と指導者の関係	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	特任准教授 宮本 宗明
8	スポーツ心理学	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	助教 後藤 慎吾

「富士市民大学前期ミニカレッジ」にて健康講座を担当

全キャンパス
地域貢献センター

連携・協力 富士市教育委員会

富士市教育委員会では、各分野に精通している講師陣や地域の有識者と連携を図り、高度で有益な学習の機会を提供する「富士市民大学前期ミニカレッジ」を例年開催しています。このミニカレッジにおいて、今年度は本学の教員が健康講座「カラダの DIY ～健康なカラダづくりを目指して～」を担当しました。

◆令和 6 年度 富士市民大学前期ミニカレッジ 健康講座「カラダの DIY ～健康なカラダづくりを目指して～」開講講座一覧

No.	講座名	所属	講師
1	身近にある東洋医学 ～実践、ツボ押し養生法～	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	准教授 藤田 格
2	毎日を健やかに過ごすための食に関する考え方	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 野末 みほ
3	睡眠から考える健康 ～快眠で毎日元気に過ごしましょう！～	(元)健康科学部 静岡理学療法学科	教授 青田 安史
4	最新！「疲労」と「痛み」のサイエンス	健康プロデュース学部 健康柔道整復学科	准教授 安井正佐也

受講者からは、「スライドもテキストもわかりやすく良かった。普段の生活ではなかなか聞けないお話をたくさん聞けて大変勉強になった」「本来なら大学へ行かないと学べない講座を受講することができて良かった。今後の生活に役立てていきたい」と健康について様々な視点から学び・見直すことができる講座となりました。

今後も地域の学びに寄与できるよう、各自治体における生涯学習活動に貢献していきます。



能登半島地震被災地支援・視察

浜松 C
ThunderBirds
健康科学研究科

連携・協力 (公財)日本財団ボランティアセンター、NPO法人グッドネイバーズ、NPO法人レスキューストックヤード等

8月8～10日、浜松キャンパスのボランティアサークル ThunderBirds の学生と健康科学研究科の学生等 12 名は、(公財)日本財団ボランティアセンターとの共催で能登半島地震の被災地である輪島市及び穴水町を訪れ「心のケア活動」を行いました。

輪島市では、NPO 法人グッドネイバーズの企画するワークショップで「私たちの街」をテーマに子どもたちが制作したジオラマの発表に参加し、交流をしました。作品は、好きな食べ物で作ったビルやバスケットボールコート等が作られ夢や希望にあふれていました。どの子どもたちも積極的に前を向いて生きていこうとする様子を知ることができました。穴水町では駐在している静岡県職員の方に紹介された被災箇所の視察と仮設住宅を訪問しました。この仮設住宅では、NPO 法人レスキューストックヤードが運営する「ボラまち亭」でワークショップを開催しました。寄り添いカフェ・工作・カードゲーム・エクササイズ等学生が企画運営し、80 名を超える方との交流を楽しみました。来場された時には、口数も少なく、遠慮気味だった方も帰り際には笑顔がこぼれていました。また、ここではイベントチラシ等を持ちながら 1 軒 1 軒を訪問し、様子を伺う聞き取り活動にも参加しました。仮設住宅の住民からは「友達を作りたい」「一人暮らしのため気持ちを発散する機会が欲しい」「今回のようなイベントは必要」等という声が多く聞かれ、コミュニティの必要性を感じました。



今回の活動では、様々な立場の方から貴重な被災体験を伺うことができました。災害を自分事にとらえ、まずは「自分の命を守る」行動をする、今後も防災・減災への意識を高める活動を進めていきます。


産官学連携研究

本学は産官学連携を積極的に進めており、地域社会や地域経済の発展に寄与することを目的として、共同研究・受託研究に取り組んでいます。

【共同研究】 企業等の依頼者が大学研究者と共同して新しい技術の開発や事業の創造、製品の開発等を行います。知的財産の取扱等を含み、共同研究契約を取り交わします。

【受託研究】 企業等の依頼者が研究課題を大学研究室に委託して研究を行います。知的財産は原則として大学に帰属し、受託研究契約を取り交わします。

大学ホームページにも共同研究・受託研究等の事例を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

大学 HP はこちら	産官学連携研究	
------------	---------	---

◆研究事例

多角的アプローチによる高速道路の価値創造と地域活性化の取組み

連携・協力 中日本高速道路(株)、(株)静岡銀行、静岡市都市計画部交通政策課

草薙 C
教育学部
経営学部

常葉大学(経営学部・教育学部)と中日本高速道路(株)(NEXCO 中日本)が共同して、多角的アプローチにより高速道路の価値創造と、静岡県内の地域活性化を目指して活動に取り組みました。具体的な内容として、情報学の観点から新東名高速道路静岡 SA 内にある「自転車の駅」を拠点とした SA サイクリングイベントを実施する山田雅敏ゼミ(経営学部)、芸術学の観点から静岡に関係するキーワードを歌詞に入れた作詞・作曲を行う望月たけ美ゼミ(教育学部)、そして観光学の観点から高速道路利用者に向けた県内おすすめマップを作成する澁谷和樹ゼミ(経営学部)が実践されました(研究期間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 1 月)。



の成果として、高速道路静岡 SA を拠点としたサイクリングイベントが数回実施され、オクシズを中心としたサイクリングマップの配布も行われました。また静岡県民からのアンケート調査結果を元に「しぞーかソング」と「富士のほうじ茶ソング」が作詞・作曲されました。さらに高速道路を利用した県内の観光マップが制作され、市民に配布されました。これらの諸活動については、ホームページや SNS に加えて、新聞社やテレビ局等、多くのマスコミに取り上げられる等、幅広く情報が発信されました。

これらのアプローチにより県内の地域活性化が大きく期待される他に、活動に参加した学生からも満足度の高い感想が多く聞かれる等、教育的効果の高い活動であったと考えられます。

産官学連携研究

中高生向け SNS の誹謗中傷リスクを学ぶ情報モラル教育教材の開発

連携・協力 (一財)LINE みらい財団

草薙 C
教育学部

学校教育課程の酒井郷平准教授と(一財)LINE みらい財団は、中高生向けに SNS の誹謗中傷リスクを学ぶ情報モラル教材を共同開発しました。近年、中高生のスマートフォン所持率が高い傾向にあり、SNS の普及によりネット上でのコミュニケーションが増加しています。また、誹謗中傷の加害者や被害者となるトラブルも報告されており、子どもたちの情報モラルの育成が急務です。この教材では、シチュエーション別の情報発信リスクや悪質な SNS 投稿への対応方法等について、ワークショップ形式で実践的に学ぶ機会を提供します。また、本教材を通じて、子どもたち自身がネットコミュニケーションの難しさやリスクを見積もることの大切さについて考えることが期待されます。



ローソンとのコラボで新製品パンを開発

連携・協力 (株)ローソン

草薙 C
経営学部

経営学科野田ゼミは、(株)ローソンと共同で新商品パンの開発を行いました。ゼミ生 22 名が 5 チームに分かれ、販売実績データや消費者ニーズを分析し、商品コンセプトの開発から試作、パッケージ考案まで実施しました。最終的に「もちもち食感アサイーパン」が最優秀案に選ばれ、1 月 14 日から東海・北陸地方のローソン約 1,600 店舗で販売されました。今回の共同開発について、参加した学生は「大学での学習の成果と学生生活の充実に繋がった」と喜び、ローソン担当者からも「ターゲット設定やコンセプト開発、今の消費トレンドを反映する材料をいち早く選択し、完成度の高い試作品まで作ったことに感動した」との評価をいただきました。



皮膚カロテノイド測定で野菜摂取状況を数値で見える化

連携・協力 聖隷浜松病院、医薬基盤・健康・栄養研究所

浜松 C
健康プロデュース学部

健康栄養学科の野末みほ教授と三浦綾子教授は、浜松市の官民連携協働研究事業「皮膚カロテノイド測定器を用いた市民に向けた野菜摂取量増加推進」に聖隷浜松病院と医薬基盤・健康・栄養研究所の研究者らと共同で参画しています。この取組は令和 2 年度から始まり、現在では小中学校及び高校の家庭科教諭等と連携し、家庭科等の授業の一環として実施しています。また、市内の企業の従業員に対しても実施し、企業での健康経営の取組へつなげています。野菜摂取状況を数値として見える化し、市民が自身の野菜摂取状況を把握し、必要に応じて行動変容を起こすことで野菜摂取量の増加を図り、健康増進へつなげたいと考えています。

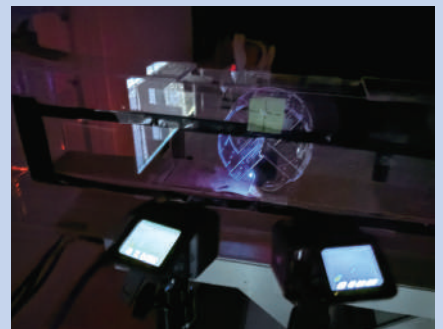


実験動物の運動機能評価システムの開発

連携・協力 (株)フロンティアメディック

浜松 C
保健医療学部

作業療法学科の熊田竜郎教授は、令和 2 年より医療用機器製造業の(株)フロンティアメディックと共同して、神経系疾患モデル動物の運動機能を詳細に評価できるシステムの開発に取り組んでいます。近年、脳梗塞等の神経系疾患に対する創薬研究が広く行われていますが、実験動物の運動機能を詳細に評価する手法は限られています。そこで本研究では、三次元動作分析技術を活用し、実験動物の特性に配慮した動作分析システムのプロトタイプを開発しました。企業の高度な技術支援を受けながら研究を進めることで、研究者だけでは実現が難しい精密な機器開発が可能となりました。今後は、この評価システムを用いて、創薬や新しい治療法の開発に向けた基盤作りを目指していきます。



外部助成事業

◆ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ・研究室等地域貢献推進事業」

大学(学生を含む)と地域の交流の拡大を促進し、直接的な大学の知の地域への還元及び県内地域の振興に寄与することを目的として、県内の地域課題について、地域と一体となって、解決方策の提言や課題解決のための実践的な研究を行う事業です。

No.	研究テーマ	所属	代表者
1	健康寿命の延伸を図るための地域の取り組みについて(菊川市)	教育学部 心理教育学科	講師 中川 雄真
2	「ふじのかみ」トイレトーパー包装紙の新デザイン制作(富士市)	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
3	アクティブ・ラーニングによる幼保小接続プロジェクト(裾野市)	保育学部 保育学科	教授 山本 睦

健康寿命の延伸を図るための地域の取り組みについて

連携・協力 菊川市健康福祉部健康づくり課

草薙 C
教育学部

心理教育学科の中川雄真講師は、「健康寿命の延伸を図るための地域の取り組みについて」をテーマに、健康寿命の



増進に関して特に重要となる要因を特定し、健康寿命延伸のための取り組みについて検討することを目的とし、事業に取り組みました。菊川市が菊川市在住者を対象に実施した健康調査票から得られた結果を分析した結果、食生活、休養・ストレス、地域活動尺度と、現在の健康状態尺度との間に相関が確認され、中川講師は、既に菊川市で設置されている「菊川だれでも食堂」と並行し、「シニア食堂」を設置することで高齢者の結果として健康寿命の延伸につながるのではないかと考察しました。

「ふじのかみ」トイレトーパー包装紙の新デザイン制作

連携・協力 富士市産業交流部産業政策課

草薙 C
経営学部

経営学科の小豆川ゼミ・研究室の学生は、『「ふじのかみ」トイレトーパー包装紙の新デザイン制作』をテーマに、脱炭素社会・資源循環型社会に寄与する再生家庭紙、富士市、再紙協の会員企業のイメージアップ、魅力発信の向上に寄与することを目的として事業に取り組みました。



学生らは「デザイン思考」の基本を学び、工場見学やワークショップ等を通じて、デザイン制作の一連のプロセス、ユーザー視点の重要性や日常生活をはじめとして様々な分野への適用の可能性を学びました。見学で感じた気づきや発見、未来への構想をグラフィックレコーディングでまとめ、新デザインの制作に取り組みました。

アクティブ・ラーニングによる幼保小接続プロジェクト

連携・協力 裾野市健康福祉部幼稚園保育園

草薙 C
保育学部

保育学科の山本睦ゼミでは、各学校種での一貫して行う教育方法の1つ「アクティブ・ラーニング」に焦点を当て研究を進めました。学生は、アクティブ・ラーニング導入の実態を知るために、裾野市の幼保小中高の管理職・一般職の方を対象としたインタビュー調査を行い、調査結果を参考に静岡県内の保育者や行政関係者を対象とした研修会を2回開催しました。研修会では、アクティブ・ラーニング導入の背景や種類・効果・定着条件等について学生が発表を行いました。その後、学生がファシリテーターとなり、アクティブ・ラーニングを実際に行うグループワークを行い、参加者に交流の場を提供しました。



外部助成事業

◆しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

しずおか中部連携中枢都市圏と地域大学との交流の促進や、大学の研究成果を地域の発展に活かすことを目的とし、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町と一体となって実施する事業です。

(静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町)

No.	研究テーマ	所属	代表者
1	外国人コミュニティとの共生に向けた取組(島田市)	教育学部 生涯学習学科	准教授 那珂 元
2	コロナ後のテレワークの需要調査と 市内テレワーク施設紹介資料の更新(静岡市)	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
3	「介護予防」普及啓発に向けた分かりやすい広報戦略(静岡市)	造形学部 造形学科	教授 安武 伸朗
4	日本平動物園のPR・集客に繋がる連携事業の実践！(静岡市)	法学部 法律学科	特任教授 丸岡 浩三
5	外国人住民の住みやすさ向上(川根本町)	健康科学部 看護学科	教授 白石 葉子
6	「町民一人一スポーツの実現」に向けた事業運営戦略(吉田町)	健康プロデュース学部 心身マネジメント学科	准教授 村本 名史

外国人コミュニティとの 共生に向けた取組

連携・協力 島田市観光文化部文化振興課

草薙 C
教育学部

生涯学習学科の那珂元准教授は、島田市における外国人コミュニティとの共生促進に寄与する目的で、やさしい日本語版ごみ出しリーフレットの制作に取り組みました。この活動には常葉大学附属常葉高等学校の生徒も参加し、官学連携で成果物を島田市に提供しました。

また、島田市における外国人コミュニティの現状把握のため、島田市国際交流協会のご協力のもと、日本語教室に通う外国人住民を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、外国人住民が頻繁に訪れる施設(スーパーや飲食店)を特定し、外国人住民に対して行政サービス・支援情報を届ける効果的な場所を明らかにしました。



コロナ後のテレワークの需要調査と 市内テレワーク施設紹介資料の更新

連携・協力 静岡市総合政策局企画課

草薙 C
経営学部

経営学科の小豆川ゼミ・研究室の学生は、1.「コロナ禍後のテレワークの需要調査」、2.「静岡市まちごとテレワークマップ 2025 年版」の企画・制作、3.「3 種類のツアープランの企画(清水エリア 2 種類、静岡・用宗エリア 1 種類)」を行い、静岡市の関係人口の増加、移住・定住の促進、企業のサテライトオフィス進出等に資することを目的に活動を行いました。マップ制作では 3 つのテーマを設定し、学生の取材による原稿作成・写真撮影・各スポットとの調整で完成させ、静岡市移住支援センター、各種セミナー・相談会等での配布を予定しています。また、3 種のツアープランは各種プロモーション施策に役立てていただく予定です。



「介護予防」普及啓発に 向けた分かりやすい広報戦略

連携・協力 静岡市保健福祉長寿局

瀬名 C
造形学部

造形学科の安武研究室は、地域社会における要支援・要介護者の増加、それに伴う介護サービスに要する経費の増加や、サービス提供における人材不足の深刻化に対し、静岡市が取り組む介護予防の取り組み「しずおか ちゃちゃちゃ」を支援するための活動を行いました。

学生は、「しずおか ちゃちゃちゃ」の趣旨を理解した上で、大阪で実施されている同様プログラムの視察、「しずおか ちゃちゃちゃ」プログラムの視察、利用者のインタビューを行いました。これらの活動で得た情報の分析結果をもとに広報ツールを作成し、静岡市が課題としている介護予防の普及啓発に貢献しました。



日本平動物園のPR・集客に 繋がる連携事業の実践！

連携・協力 日本平動物園・選挙管理委員会

水落 C
法学部

法律学科の丸岡ゼミの学生は、静岡市日本平動物園の課題である「賑わい創出(閑散期の入園者増)」と、静岡市選挙管理委員会の課題である「選挙における深刻な投票率の低迷に対する投票率向上策(主権者教育の充実)」の解決を目的として取り組みました。学生は、日本平動物園の視察や動物飼育員に意見聴取を行い、学生同士の討議を経て、12種の動物の選挙ポスターと選挙公報を作成しました。また、日本平動物園への来園を促すための動画を制作し、静岡市選挙管理委員会のSNSにて情報発信を行いました。日本平動物園での広報活動については報道機関でも多く取り上げられ、1.4万票を超える投票が集まり、動物園の認知度・集客、市議会議員選挙のPR等にも貢献することができました。



外国人住民の 住みやすさ向上

連携・協力 川根本町・経営戦略課

水落 C
健康科学部

看護学科の白石葉子教授は、静岡県立大学看護学部の濱井妙子特任講師と連携して、川根本町在住の外国人の住みやすさ向上を目指し、日本人住民を対象に、外国人との共生に関する現状と課題について調査しました。また、日常生活のわかりやすい情報として「ごみの捨て方ガイド」のやさしい日本語版を作成しました。調査では、外国人と地域社会の共生には、言語や文化の相互理解、外国人の背景に合わせた支援、生活環境の整備等の重要性がわかり、特に医療受診では、言語の壁により受けられる医療の質が課題であるため、町役場を中心に地域住民や医療機関等が協力し、共生に向けた取り組みを広げる必要性について提案しました。



「町民一人一スポーツの実現」 に向けた事業運営戦略

連携・協力 吉田町教育委員会生涯学習課

浜松 C
健康プロデュース学部

心身マネジメント学科の村本ゼミ・神力ゼミは、吉田町のスポーツ振興事業を分析・検証し、吉田町民のスポーツ実施率向上につながる内容を提案することを目的とした活動を行いました。吉田町の近隣市町からも参加が見込めるスポーツイベントとして、ソフトバレーボール大会、ファミリーウォーク、ダーツ大会、駅伝大会を実施し、学生が運営・補助を行いました。また、スポーツ参加を促し吉田町の魅力を発信できる「シューズケース」を作成し、参加者に配布しました。吉田町には設備が整っている総合体育館があるため、各種スポーツや運動を町民へ紹介することで、町民の運動意欲の醸成が期待できると提言しました。



学生団体紹介 —静岡キャンパス—

学生スタッフ Link

地域貢献やボランティア活動に興味を持つ学生有志の集まりです。地域貢献センターを拠点に、自分たちでボランティア活動を企画・運営したり、皆で一緒に外部のボランティアに参加したりしています。



チーム LLL

「学生がやりたいことが実現する環境を作る」をビジョンとしています。令和6年度では、焼津市の子ども食堂のボランティアを中心に活動しました。



理科学研究部

科学教室を開き、子どもたちに理科の楽しさや不思議さを体験してもらう活動をしています。



つくしんぼ

静岡県内の「児童養護施設静岡ホーム」で施設の子どもたちへの学習支援や交流活動を行っています。毎週金曜日に施設を訪れ、学習の手助けだけでなく、信頼関係を築くことを大切にしています。



社会貢献サークル milk

ボランティア活動を通して社会に貢献し、社会に存在する様々な課題の発見・改善に尽力することで、社会性と連帯性を培うことを目的として活動しています。



Supporting Para-Sports

静岡県内の障がい者スポーツ大会を中心に、大会運営支援活動を行っています。障がい児(者)の社会参加を支え、共生の歩みを実現していくことを目的としています。



DEL SOLE

スポーツを楽しみながらイベントのボランティア活動に参加し、スポーツ現場での理学療法を学ぶことを目的として活動しています。



防犯サークル JUSTICE

地域防犯活動の担い手として、静岡県警察・防犯協会等、地域からの依頼を受けて活動しています。



水落ボランティアサークル「HOPE」

多種多様なボランティア活動を行っています。様々なボランティア活動に参加し、自分自身の成長を目的としています。



ミズオチ交流会

大学近くの商店街や市役所の方と協力して地域を盛り上げる活動をしています。主に、商店街の活性化、駿府城公園の活用を目標にしています。



学生団体紹介 —浜松キャンパス—

ココスタ

サークルや部活動等、日頃の学びや経験を活かし積極的に地域貢献活動を行う 9 つの団体の総称です。定期的に会議や活動報告会を実施し、交流を深め、情報共有により、発展的な地域貢献活動に繋がっています。

ぷれぐろラボ

アスリートのパフォーマンス改善や子どもの体力 UP、運動機会の提供を行い、活動を通して子どもの健幸と成長をサポートしています。



地域貢献サークル Cocoa

経営学科のみで構成されるサークルです。奥浜名湖地域の魅力発信等、学科の学びを活かした地域貢献活動を行っています。



SinQ

健康鍼灸学科のみで構成されるサークルです。刺さない鍼や美容鍼を用いて、マラソン大会でのケア活動や施術体験を行っています。



食プロデュース

健康栄養学科の学生で構成されるサークルです。栄養バランスを考えた食事や栄養に関するアドバイスを中心に活動を行っています。



障☆スポ SC

パラスポーツの普及を目指し、「ボッチャ」や「車椅子バスケットボール」等の体験会による啓蒙活動を行っています。



Sun & Leaf

こども健康学科の学生を中心として構成されるサークルです。屋内施設や自然体験等で、子ども向けイベントの企画や運営を行っています。



Thunder Birds

「僕らが今、できること」をモットーに、災害支援活動や地域防犯等、地域のニーズに応じて幅広く活動を行っています。



AT サークル CATS

アスレティックトレーナーの資格取得を目指し運動部のサポートやマラソン大会におけるコンディショニング指導を行っています。



陸上競技部

部活動の経験を活かし、地域の子どもたちを対象に陸上教室を開催し、走る楽しさを伝え、競技力向上に貢献しています。



発行：令和 7 年 3 月

常葉大学 地域貢献センター



常葉大学
常葉大学短期大学部

公式ホームページ

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>



〔草薙地域貢献課〕

〒422-8581
静岡市駿河区弥生町 6-1
TEL：054-297-6142

〔水落地域貢献課〕

〒420-0831
静岡市葵区水落町 1-30
TEL：054-297-3200

〔浜松地域貢献課〕

〒431-2102
浜松市浜名区都田町 1230
TEL：053-428-6748

※記載されている教員の職位および学部・学科の名称は令和 7 年 3 月時点でのものです
令和 7 年 4 月付で以下の学科は名称を変更いたします

旧

健康プロデュース学部
健康プロデュース学部
こども健康学科
心身マネジメント学科



新

健康プロデュース学部
健康プロデュース学部
保育健康学科
スポーツ健康科学科